

ワークショップ：10月31日（土）13：00～15：00

A：水資源循環との共生に向けたまちづくりの可能性

水資源の受容型利活用デザイン研究会

[会場②／B12]

「水資源循環と都市環境との創造的な関係を問い直す」ことを目的としたワークショップである。本研究会では、現代的な地域課題の解決に寄与する水資源との持続的な関わり方として「水資源の受容型利活用デザイン」を提起し、制度、体制、技術の視点から研究活動に取り組んでいる。本ワークショップでは、「降る」「湧く」「流れる」「溜まる」水資源に関する事例報告を通して、水資源と都市環境との関わり方を議論する。

≪登壇予定者≫ 一ノ瀬彩（茨城大学）、牛島健（北海道立総合研究機構）、笹川みちる（NPO 法人雨水市民の会）、菅原遼（清水建設株式会社）、藪谷祐介（富山大学）

B：地方都市の都市計画の役割を展望する～北海道の都市地域づくり最前線から～

日本都市計画学会 北海道支部

[会場③／B31]

急速に進展する人口減少に直面し、地方都市の都市計画は、市街地整備や土地利用の枠内だけでは捉えきれず、生活機能の維持、広域的な地域経営、多主体連携、地域人材の育成、そして縮小社会における持続可能な空間再編を一体的に構想する段階にある。「課題先進地・北海道」の都市地域づくりの経験を元に、登壇者によるトークセッションを通じて、これからの都市地域づくりに必要な都市計画の役割、共創のあり方を展望する。

≪登壇予定者≫ 石井旭（（地独）北海道立総合研究機構）、小篠隆生（（一社）新渡戸遠友リビングラボ）、杉崎和久（法政大学）、安富啓（（株）石塚計画デザイン事務所）

C：『市民の発意』を支える仕組みを考える ～ヨコハマ市民まち普請事業を事例に～

市民の主体的な発意を組み込んだ地域ビジョンのつくり方研究会

[会場④／B32]

研究会で視察を行ったヨコハマ市民まち普請事業を事例に、市民の発意を支える仕組みについて考えるワークショップです。事業の活動支援や市への提案に携わった片岡公一氏（山手総合計画研究所）による話題提供に加え、行政・コーディネーターへのヒアリング報告、事業の支援を受けた事例の報告を行います。その後、市民との伴走のあり方や、発意の具体化に向けた体制・支援のあり方について議論し、市民の発意をもとにビジョンを現実の空間としてどのように実現させられるかを考えます。

≪登壇予定者≫ 片岡公一（（株）山手総合計画研究所）、福本優（兵庫県立大学）、松本邦彦（金沢大学）、阿久井康平（大阪公立大学）、高木悠里（大阪公立大学）、石原凌河（龍谷大学）

D：日本・韓国・台湾での縮小都市研究の比較研究の意義

シュリンク・シティ研究会

[会場⑤／C212]

2026年10月10日、11日に日本・韓国・台湾の縮小都市・地域研究者が京都の龍谷大学に集い、お互いの研究成果を共有するシンポジウム（Pacific Asia Shrinking City Research Alliance 2026）を開催した。日本側はその企画・運営をシュリンク・シティ研究会のメンバーが担った。本ワークショップでは、東アジアの3ヶ国における縮小都市の実態、そしてそれへの対策を比較研究することの意義や課題について、実際のシンポジウムの経験を踏まえて議論をする。

≪登壇予定者≫ 饗庭伸（東京都立大学）、岡井有佳（立命館大学）、新保奈穂美（東京大学）、Im Hyun（東京都立大学後期博士課程）、服部圭郎（龍谷大学）

E：地域の強み×海外展開・国際協力の展望

海外都市開発交流小委員会

[会場⑥／C213]

日本の各地域が有する都市計画分野の知見や強みを、海外展開や国際協力に繋げていくための取組を参加者間で議論する。本学会及び小委員会による「まちづくりの海外展開」の取組事例を共有すると共に、産学官民に期待される役割、連携を促進するために必要な機会・体制、知見を現地の状況に即して展開する方法を考える。さらに、海外交流を通じて得た学びを人材育成や新たな連携へ還元する方法を探り、学生・研究者・実務者が海外の都市課題に目を向け、海外展開や国際協力への関わりを考える場とする。

≪登壇予定者≫ 志摩憲寿（東洋大学）＋平野邦臣（（株）日本工営）＋小委員会幹事数名